

パースの食を支え続ける日本食堂 和食の裾野を広げた「Taka's Kitchen」

後は Barrack St. 店を中心に、スタッフの採用や備品の補充、経理業務、予約管理などをやっています。お父さんは、出産前は『フロアのことはお前の方がよく分かっている』と言ってくれて、私が思うことを自由にやらせてくれました。大学でビジネスを専攻していましたが、やっぱり現場は違いますよね。日々、新しいことが起きるんです」

「Taka's Kitchen は、お父さんが始めたお店です。これからも、お父さんの意志に沿ってやっていくだけです。だから私は、早く・安くというお父さんが築いてきたものをできるだけ守っていきたくて思っています」と亜希さん。時代が少しずつ変化しても、どの時代にも愛される日本食堂は、ここにあり続けることだろう。

家族が増えてこそ感じるお父さんの偉大さ

現在、亜希さんは8歳と7歳の息子さんを持つ子育てママ。高校時代からお付き合いを始めたパートナーと、お互いの仕事とプライベートを尊重しながら生活をしている。両親もその輪の中に加わって、亜希さんらを後ろからそっと支える。例えば、週に4回は両親、姉夫婦、亜希さんらが実家に集まって食卓を囲むそうだ。亜希さんの母、静子さんの和食を中心とした手料理と、子どもたちが大好きな Taka's Kitchen のチキンカツがテーブルに並ぶ、家族団欒の時間だ。

「お父さんは昔から口数が少ない人なので、私たちが“ちゃんと食べなさい”とか“好き嫌いなさいの”と息子たちに注意しながら騒がしく食事をするのを黙って見て

います。でも、この時間が好きなんだろうなと感じています。それに、私もお父さんとの時間を昔はゆっくりと持てなかったの、子どもを介して一緒に時間を過ごせるのは嬉しいことですし、助かってます」

「お父さんも最近ようやく、他の人と同じように趣味を持ったり、片道1時間以上かけて自転車で通勤するようになったりして、変わってきているのかなと感じることもあります。それまでは職人気質で、仕事一筋でしたから。“お父さんはどんな人?”と聞かれると、うまく答えられないですけど、やっぱり“頑張ってきた人”だと思います。私には絶対にできないことをお父さんはたくさんやってきましたから、尊敬していないとは言えないですよ(笑)」



お店の業務をこなしながら、2児の男の子を育てる温水亜希さん。



TAKA's Kitchen と 亜希さんの足あと

- 『早く・安く』をモットーに、日本食堂を創業。
- 日本のあの懐かしい味をラインナップ。
- 脱サラからスタートした父は、人気エリアに続々出店。
- 店舗運営と子育てを二世代で。

家族4人でパースへ移住。

2店舗目を開業。

Taka's Kitchen Shafto Lane 店をシャフト・レーンに開業。

Taka's Kitchen Barrack St. 店をバラック・ストリートに開業。

亜希さんの次男誕生。

1989

1992

1995

2002

2005

2007

Taka's Kitchen Fremantle 店をフリーマントルに開業。

大学卒業と同時に、Taka's Kitchen で働き始める。

亜希さんの長男誕生。フロアを離れ事務、マネジメントの仕事に専念。